
在宅人工呼吸器使用者のための 災害時個別支援計画作成の手引

在宅人工呼吸器使用者のための災害時個別支援計画の作成に関する知識や記入方法について示しました。

なお、計画の様式は参考として示したものであり、各自治体の判断で独自に項目を追加したり、アレンジして利用いただいて構いません。

- 表 紙
- フロア | 災害時における人工呼吸器の作動確認と対応の流れ
- 様式 1 | 連絡リスト
- 様式 2 | 災害用備蓄リスト – 7日を目安に –
- 様式 3 | 停電
- 様式 4 | 地震
- 様式 5 | 風水害（洪水、高潮、土砂災害等）
- 様式 6 | 緊急時の医療情報連絡票
- 参 考 | 災害時の情報リスト

■ 表紙

＜資料 3＞
令和 7 年 4 月 改訂版

在宅人工呼吸器使用者のための
災害時個別支援計画

1

氏 名 _____ 様
 住 所 _____
 前段療養している部屋の位置 _____
 電話番号 _____
 避難済の目印 _____

2

あなたの自宅付近のハザードマップ ☐洪水 ☐高潮 ☐津波 ☐土砂災害

3

地震に属する地域を数値 ☐建物倒壊 ☐火災

3

避難行動要支援者 登録 ☐済 ☐未 ➡ ① 登録予定 _____年 _____月 _____日
② 登録しない

4

作成日 | _____年 _____月 _____日
 更新日 | _____年 _____月 _____日
 _____年 _____月 _____日
 年 1 回は見直ししよう

— 43 —

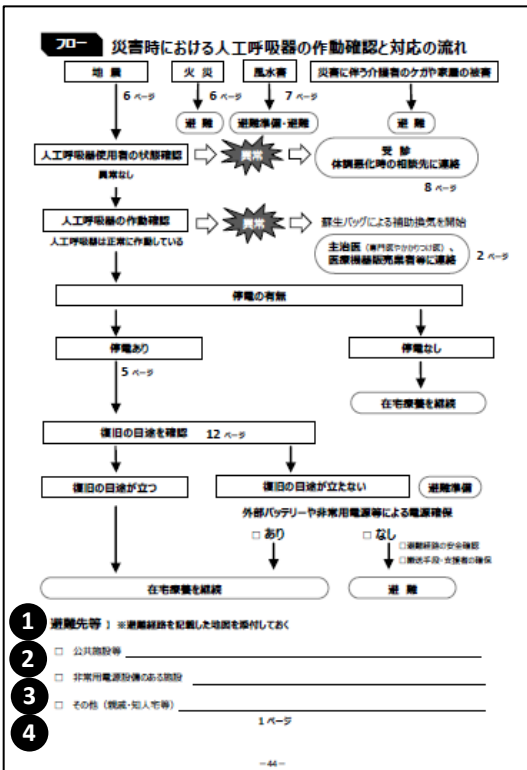
- 1 人工呼吸器使用者の氏名、住所、電話番号を記入する。
普段過ごしている居室の位置を記載する。
例) 集合住宅 2 階、玄関から入って右の部屋
安否確認のために訪れた関係者に避難済みであることがわかるよう、避難した場合の目印についても決めておく。
- 2 自宅付近のハザードマップ
居住地区のハザードマップ等を確認し、自宅付近にどのような災害の危険性があるのかを調べ、「洪水」、「高潮」、「津波」、「土砂災害」の中で起こりうるものについて、☐にチェックをつける。あわせて地震に関する地域危険度も確認（東京都地域危険度で検索）し、☐にチェックを入れる。その他に考えられるハザードがある場合には、空白スペースを活用する。
- 3 避難行動要支援者登録
居住地の区市町村の避難行動要支援者名簿への登録が済んでいるか否かについて確認し、☐にチェックをつける。居住地の区市町村で、災害時の避難等にかかる行政の支援を受けるためには、避難行動要支援者の名簿登録を行う必要がある。

要がある。名簿の作成は区市町村が行うため、詳しくは居住地の区市町村へ確認する。

4 作成日・更新日

更新の目安は 1 年に 1 度であるが、人工呼吸器の設定や関係機関の変更など必要に応じて更新する。

■ 災害時における人工呼吸器の作動確認と対応の流れ（フロー）



災害時における人工呼吸器の作動確認と対応フローを示した。フローに基づき、どのような場合に連絡・相談、避難、受診等を行うかについて人工呼吸器使用者および家族、関係機関等とともに整理し、シミュレーションできることが理想である。また、フローに示すページ数は、災害時個別支援計画のページ番号に対応している。

- 1 避難先等
避難する場合の避難先の名称、住所を記載する。避難経路についてもハザードマップで確認し、安全な避難経路を記入した地図を、計画と併せて保管する。家屋の倒壊や二次災害の危険がない場合には在宅療養を継続する。
- 2 公共施設等
避難場所、避難所、福祉避難所等の名称、住所を記載する。
- 3 非常用電源設備のある施設
自宅近くで非常用電源設備等があるところ（医療機器の外部バッテリー類の充電ができるところ）を確認し記載する。複数箇所を記載できることが望ましい。

■ 様式2 災害用備蓄リスト

機 種 2

災害用備蓄リストー 7日を目安にー

※例、1日あたりとして食品を記載し、併記しより、災害の際は、この災害用備蓄リスト(表)1日分程度を記入し、7日分。

品 目		備 蓄 数	災害時の持出数	置き場所など
呼吸器	人工呼吸機	1		
	救急バッグ	1		
	外部バッテリー	1		
	予備呼吸器4個	4		
	予備吸気カニューレ	1		
	加湿加湿器	1		
	パルスオキシメーター	1		
吸引器	酸素ボンベ	1		
	吸引器	1		
	吸引器用バッテリー	1		
	吸引器用バッテリー	1		
救急箱	救急セット	1		
	救急セットの点検(1週間程度)	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
救急箱	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
救急箱	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
救急箱	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
救急箱	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
救急箱	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
救急箱	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
救急箱	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
救急箱	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
救急箱	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
救急箱	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
救急箱	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
救急箱	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
救急箱	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
救急箱	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
救急箱	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
救急箱	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
救急箱	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
救急箱	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
救急箱	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
救急箱	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
救急箱	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		
	救急セット	1		

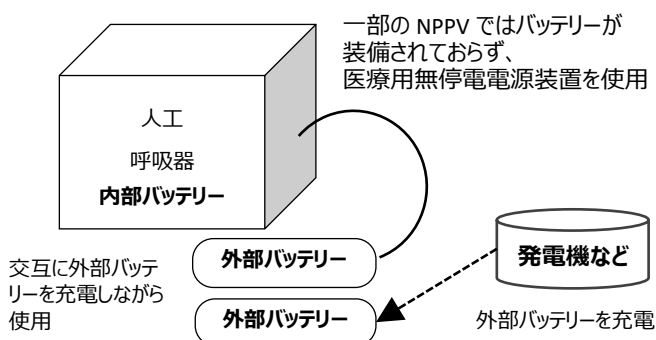
7日間を目安とした備蓄数、避難や受診の際の持出数を記入する。適宜、要・不要な項目があれば追加・削除する。定期的に確認し、使用期限があるものは、入れ替えを行う。

機器・器材の特徴

①呼吸関連

人工呼吸器

電気を動力源とする。鼻マスク等を用いた人工呼吸療法（NPPV）専用の一部の人工呼吸器以外は、内部（本体）バッテリーがある。停電等で、コンセントからの電気が使用できない時は、交互に充電した外部バッテリーで人工呼吸器を使用する。



蘇牛バッグ

停電による呼吸器停止時に、手動で呼吸を確保する道具。手の届く定位置にすぐ使える状態にしておく。

外部バッテリー

停電時の人工呼吸器の電源。①常に人工呼吸器に繋ぎ、人工呼吸器を動かしながら充電するタイプと、②バッテリー単独で充電し、停電時（使用時）に人工呼吸器に繋ぐタイプがある。そのため、②のタイプは、繋ぎ方を練習しておく必要がある。

バッテリーは経年劣化し、作動時間が短くなっていく。そのため、代替品を備えるなど、安全性を考慮した方法をかかりつけ医などと相談する。また、外部バッテリーがフル充電で何時間使用できるか、またフル充電に何時間かかるのかを目頃から確認しておく。

予備呼吸器回路

災害の影響による破損、新しい回路の供給ができなくなる恐れがあるため、予備の一式を準備しておく。

予備気管カニューレ

長期の避難やカニューレ抜去等の事故にそなえて、カニューレ交換できるよう準備しておく。

加温加湿器

停電時には動かなくなる。人工鼻に変更可能か、非常用電源を用いて使用するかなどかかりつけ医に相談し、対応策を決めておく。なお、人工鼻は、加温加湿器やネブライザなどとは併用しない（過度の吸湿により、人工鼻が閉塞する恐れがあるため併用禁忌）。

パルスオキシメーター

卓上型（ＡＣ電源）でバッテリーがあるタイプや、乾電池タイプがある。停電時に長時間の使用は難しくなることも考えられるが、避難した時にも身体状態を確認できるよう、ＡＣ電源で作動するタイプだけでなく乾電池で作動するタイプを用意することが望ましい。

酸素ポンベ

使用状況に応じて必要本数を準備する。かかりつけ医や医療機器販売業者と話し合っておく。

② 吸引関連

吸引器

充電式や非電源式（足踏み式など）の吸引器が必要。充電式吸引器は常に充電しておく。バッテリーは劣化するため2年を目途に交換することが望ましい。

吸引チューブ

予備の吸引チューブは平常時の吸引回数を考慮し、7日分以上の量を準備する。

低圧持続吸引ポンプ（唾液を吸引する機器）

唾液などを低圧で持続的に吸引するポンプで、AC電源で作動するタイプや乾電池で作動するタイプがある。

③ 衛生材料

グローブやアルコール綿、消毒液など平常時の使用状況を考慮し、7日分以上の量を準備する。

④ 栄養

経腸栄養剤の製品名と、注入時に使用する器材について記入する。7日分以上の量を準備する。

⑤ 薬

7日分以上の量を準備し、最新の処方箋やお薬手帳のコピーを様式6（11ページ）に貼る。

⑥ 排泄

オムツやカテーテルなど必要に応じて準備する。

⑦ 意思伝達

文字盤や「はい・いいえ」の合図など電気機器を用いない手段もあらかじめ決めておく必要がある。また、バッテリーや乾電池を電力とした機器を備えることが望ましい。

⑧ 非常用電源等

発電機や蓄電池を人工呼吸器に直接つなぎ作動させることは推奨されていない。必ずかかりつけ医や医療機器販売業者に使用方法を確認する。

発電機

正弦波インバーター搭載タイプを準備することを勧める。

発電機作動中は、一酸化炭素中毒の危険があるので、必ず屋外で使用し、定期的に作動確認することを勧める。

カセットボンベを使用するタイプの発電機は、使用後にカセットボンベを本機から取り外した状態で、通常通りエンジンを始動させ、エンジンが停止するまで運転し、配管内の残留ガスを使い切る。

ガソリンを使用するタイプの発電機について、ガソリンは消防法上の危険物に該当するため所有や使用に関する詳細は消防署等に確認する。

蓄電池

正弦波が出るタイプのものを選ぶ。充電や作動確認の方法については販売業者に確認する。

乾電池

パルスオキシメーターや懐中電灯、ラジオなどを使用するため、単1、単2などの単位電池や、ボタン電池など用途に合わせて複数用意する。

延長コード（三又プラグ）

医療機器の中には三又プラグが必要な場合があるので使用している医療機器を確認する。自家用車や発電機から電気を取る場合や避難所等で使用するために準備する。

シガーソケット・ケーブル

必要に応じて準備する。普通車で一般的に使用される電気は直流（DC）12Vであり、家庭用電源（AC 100V）として使用する場合はインバーターが必要である。医療機器との接続はかかりつけ医や医療機器販売業者と平常時から相談しておく。

⑨ その他

- ・懐中電灯のほか、介護用にはランタン型やヘッドランプ型ライトが便利である。停電時すぐに利用できるよう、療養ベッドの近くに設置しておくとうい。
- ・ラジオなどの情報機器や、それらを動かすための乾電池やモバイルバッテリーを準備する。
- ・布担架を使用する場合は、事前に搬送訓練を実施しておく。
- ・備蓄品の保管場所を示す写真などは様式6（10～11ページ）の貼付欄を活用する。
- ・生活に必要な衣類なども合わせて準備する。

■ 様式3 停電

様式3 停電

平常時の備え

1 呼吸・吸引関連機器の作動時間

● 人工呼吸器（本体と外部のバッテリー時間）
バッテリーには耐用年数が示されています。作動時間は定期的に確認しましょう。
内訳（本体）：（バッテリー）作動時間 本体（本体）作動時間
 _____ 時間 + [_____ 時間 × _____ 個] = _____ 時間

● 酸素濃縮装置（本体と酸素ボンベの時間）
内訳（本体）：（バッテリー）作動時間 1. 本体及び酸素ボンベの作動時間
 _____ 時間 + [_____ 時間 × _____ 本] = _____ 時間

● 吸引器
充電機能付吸引器の連続作動時間
 _____ 分 足踏み式吸引器等、電源を用いない吸引器も記載しましょう。

2 非常用電源

● 発電機 _____ A ● 車のシガーソケット・ケーブル _____ A

● 蓄電池など _____ A
万が一に備えて使用する機器のアンペア（A）数を確認しておきましょう。発電機などは正弦波インバーター搭載かどうかを確認し、医療機器との接続について、主治医や医療機器販売業者等と相談しておきましょう。

3 医療機器の使用アンペア（A）

● 人工呼吸器 _____ A ● バッテリー・バッテリーの充電器など _____ A

● 吸引器 _____ A ● _____ A
（ほとんどの吸引器は起動時に使用アンペアが大きくなる）

4 蘇生バッグ

☐ 手の届く位置に置く ☐ 定期的に使用訓練を行う

5 東京電力パワーグリッド株式会社への登録 ☐ 済 ☐ 未
【登録区分】電話番号：0120-995-007、03-4375-0803（無料；0120を利用できない場合）
 受付時間：9:00～17:00（日・祝日、年末年始を除く）

6 非常用電源設備のある施設（バッテリーの充電など） ☐ はい ☐ いいえ
（施設状況により、充電（充電）場所があります）

4ページ
-47-

【平常時の備え】

① 呼吸・吸引関連機器の作動時間

人工呼吸器

人工呼吸器の内部（本体）のバッテリー作動時間と外部バッテリーの個数、時間について記し、合計で何時間バッテリー対応できるか記載する。バッテリーを使用した後はすぐに充電し、常にフル充電にしておく。バッテリーがフル充電になるまでの時間については、①医療機器販売業者に確認する、②平常時に実際に充電しながら計測する等があり、定期的に確認する。

酸素濃縮装置

酸素濃縮装置の内部（本体）バッテリー作動時間と酸素ボンベの消費時間について記載する。

例）1ℓ／分の酸素使用者の場合、165ℓボンベが満タンで
 $165\ell \div 60分 = 2.75$
 約2時間30分使用可能という概算である。

吸引器

充電機能付吸引器の連続作動時間を記入する。

② 非常用電源

停電が長引くと、バッテリーだけでは足りなくなるので、あらかじめ非常用電源を確保しておく。非常用電源として、「発電機」、「車のシガーソケット・ケーブル」、「蓄電池など」を記載したが、人工呼吸器と直接つながることは推奨されていないため、必ずかかりつけ医や医療機器販売業者に使用方法を確認する。人工呼吸器に対して安全な使用が認められている電源は以下のとおりである。

- ① 医療機器販売業者が推奨する人工呼吸器専用のバッテリー
- ② 医療機器販売業者が推奨する人工呼吸器専用のシガーソケット・ケーブル
- ③ 医療機器販売業者が推奨する医療機器専用の無停電電源装置（UPS）

③ 医療機器の使用アンペア

非常用電源から充電するために、医療機器などのアンペア（A）やワット（W）を確認しておく。機器の「W（ワット）数」や「VA（ボルトアンペア）数」を100で割る（÷100）と「A数」とほぼ同じである。機器の起動時は表記されている消費電力の2～3倍の電力が必要なことを考慮する。車のシガーソケット・ケーブルについては、医療機器販売業者の推奨する専用のケーブルやシガーソケット・ケーブル付きインバーター（正弦波に変換でき人工呼吸器などの精密機器につなげられるタイプ）を準備し必ずエンジンを駆動させてからつながる。エンジン駆動時は電流が乱れるので故障の原因になる。

④ 蘇生バッグ

いつでも蘇生バッグを使えるように準備し、万が一の時は蘇生バッグで補助換気する。鼻マスク等を用いた人工呼吸療法（NPPV）では緊急時・災害時に蘇生バッグでの対応をどうするかについて、かかりつけ医と十分に相談しておくことが必要である。

蘇生バッグの練習（どのくらいの力で、何秒に1回押すかなど）や点検は、かかりつけ医や訪問看護師に定期的に確認してもらいながら実施することが必要である。

照明やパルスオキシメーターなどと一緒に、人工呼吸器使用者の近くに準備しておくようにする。

5 東京電力パワーグリッド株式会社への登録

東京電力パワーグリッド社への登録について確認する。登録されていない場合は、制度について説明し、希望者に登録を勧める。また、登録情報に変更・廃止が生じた場合は、速やかに手続きするよう案内する。

6 非常用電源設備のある施設

停電時にバッテリーの充電ができる可能性のある非常用電源設備のある場所を確認し、フロー（1 ページ）に記載する。

1

使用者の状態

□ 人工呼吸器使用者の状態の確認 6 ページ

□ 正常に作動しているか

□ バッテリーの残量が適切に保たれているか

□ 加温加湿器の作動が正常であるか

□ 酸素ボンベの残量が適切に保たれているか

2

呼吸・吸引関連機器・器材、非常用電源

● プラグ、人工呼吸器の接続が正しいかどうかを確認し、必要に応じて再接続する。

● 充電の状況を確認し、充電が完了していない場合は、充電器の外部のバッテリーを交互に充電し、人工呼吸器を作動させる。

● 充電器の故障を確認し、必要に応じて修理を行う。

● 充電器の故障を確認し、必要に応じて修理を行う。

3

呼吸・吸引関連機器以外

● 電気設備の故障を確認し、必要に応じて修理を行う。

● 電気設備の故障を確認し、必要に応じて修理を行う。

● 電気設備の故障を確認し、必要に応じて修理を行う。

● 電気設備の故障を確認し、必要に応じて修理を行う。

4

ブレーカー

● プラグが落ちている

コンセントからプラグを抜き、ブレーカーの作動を確認し、ブレーカーを上げる。

● プラグが落ちている

コンセントからプラグを抜き、ブレーカーの作動を確認し、ブレーカーを上げる。

5

非常用電源設備のある施設

● プラグが落ちている

コンセントからプラグを抜き、ブレーカーの作動を確認し、ブレーカーを上げる。

● プラグが落ちている

コンセントからプラグを抜き、ブレーカーの作動を確認し、ブレーカーを上げる。

【停電時の確認と対応】

下記の状況を確認し、□にチェックを入れる。

1 停電時に確認し対応する内容を示した。

使用者の状態

人工呼吸器使用者の状態の確認について、様式4（6 ページ）を参考にする。

人工呼吸器

バッテリー作動に切り替わっているかを確認し、外部バッテリー等につなぎ替える必要がある機器は対応する。人工呼吸器に異常がある場合は蘇生バッグによる呼吸に切り替え、かかりつけ医や医療機器販売業者に連絡する。加温加湿器の対応や人工鼻への変更等についてはあらかじめかかりつけ医に確認しておき、停電が長引く事態を想定して備える。

吸引器等

充電式吸引器は使用回数が多いと充電が切れるため、足踏み式吸引器等非電源式の吸引器の準備も必要である。

酸素濃縮装置

酸素濃縮装置のバッテリーは長くて30分程度である。停電時は速やかに酸素ボンベに切り替える。

電気関連

通電火災等の予防のため、コンセント周囲の安全確認を行い、電気が復旧するまでコンセントからプラグを抜く。避難する場合はブレーカーを落としてから避難する。

2 呼吸・吸引関連機器・器材、非常用電源

呼吸・吸引関連機器・器材、非常用電源に関して注意点を示した。

停電の復旧の目途が立たない場合、非常用電源を使用するなどして、複数の外部バッテリーを交互に充電し、人工呼吸器を作動する。

3 呼吸・吸引関連機器以外

平常時から確認・準備をし、停電時に変更・調整できることが必要である。

電動ベッドについては業者と相談し、停電時でも姿勢や高さの調整が可能なレバーを準備できるか確認する。

4 ブレーカー

ブレーカーが落ちているか否かを確認し、それに応じた対応を勧める。停電時はコンセントからプラグを抜いておく。

5 非常用電源設備のある施設

フロー（1 ページ）に同じ

- 64 -

■ 様式4 地震

様式4 地震	
1 確認	
人工呼吸器使用者の状態	☐ 顔面に異常はないか ☐ SpO ₂ 値、バイパルサインに異常はないか ☐ 人工呼吸器のモニター値などに異常はないか ☐ ケガをしていないか 8 ページ
人工呼吸器の作動状況	☐ 正常に作動しているか ☐ 呼吸器の特性値に異常はないか ☐ 人工呼吸器のモニター値（設定値）が変化していないか 9 ページ
家族らにケガはないか	☐ 家族らにケガはないか 1 ページ
療養環境	☐ 居室や避難所が安全か ☐ ランプイン（地震・水害・ガス）は安全か ☐ 可燃物と酸素の供給は安全か 1 ページ
2 対応	
近隣で火災発生	☐ 近隣で火災発生を要する ☐ 安全な場所へ避難（避難先） ☐ 可燃物と酸素の供給は安全か（避難先） 2 ページ 3 ページ
停電発生	☐ 停電時の対応 5 ページ
3 安否の連絡	2 ページ
6 ページ	

事前に準備しておくこと

普段から、人工呼吸器使用者のベッドやその周辺に転倒・落下してくる物がないよう整える。

地震が起きた時は下記を確認し、□にチェックを入れる。

① 確認

人工呼吸器使用者の状態

揺れが収まったら、人工呼吸器使用者に問題が生じていないか確認する。顔色や酸素飽和度の値、換気量が著しく減っていないか等人工呼吸器のモニター値を確認する。

人工呼吸器の作動状況

人工呼吸器が正常に作動しているか確認する。異常な音や臭いはしないか、人工呼吸器のモニター値（設定値）が変更していないか等確認する。

また、家族らにケガはないか、療養環境について確認する。

② 対応

地震の後には火災が発生する危険があるので、区市町村の防災行政無線などに注意する。近隣で火災が発生した場合に、すぐに安全な場所に避難できるよう（ ）内に避難先を記載しておく。停電の場合は、様式3（5ページ）に沿って停電時の対応を行う。

③ 安否の連絡

安否の連絡は、様式1（2ページ）に従って、人工呼吸器使用者・家族から安否確認者へ発信する。

ただし、地震の時は、停電が長期化することを見据えて、安否確認者は連絡のみでなく訪問等により直接安否確認を行う。人工呼吸器使用者・家族の状態や人工呼吸器の作動等を確認し、在宅療養が継続できるかどうかを判断し、区市町村担当部署と連携して対応する。

また、どういう場合に（例：震度〇以上）安否確認を行うかを、あらかじめ決めて、様式の余白に記載しておくことよい。関係者が安否確認のために訪問した時には、すでに人工呼吸器使用者・家族が避難している場合もあるため、避難済みの目印（表紙を参照）について予め決めておき、関係機関で共有しておく。

■ 様式5 風水害（洪水、高潮、土砂災害等）

日常の備えとして、①機器の作動時間、作動方法の確認、②避難に備え、様式2（3ページ）の持ち出し物品をまとめておく、③自宅、避難先、避難経路のハザードマップを確認し、予想される災害の程度などに応じて、避難のタイミングや避難先を決めておく。

危険度の高まりに応じて段階的に発表される防災気象情報の確認と取るべき行動の目安

① 警戒レベル1

医療機器のバッテリー等の充電や非常用電源等の作動確認を行い、□にチェックをつける。

② 警戒レベル2

避難時持ち出し物品の準備、確認

モード 5 風水害（洪水、高潮、土砂災害等）

日常の備え！

- 機器の作動時間、作動方法を確認しておく。
- 避難に備え、様式 2（3 ページ）の持ち出し物品をまとめておく。
- 自宅、避難先、避難経路のハザードマップを確認し、予想される災害の程度や搬送支援者の確保状況等に応じて、避難のタイミングや避難先を決めておく。

危険度の高まりに応じて段階的に警戒される**防災気象情報の確認と取るべき行動の目安**

1 警戒レベル 1【早期注意情報】 情報収集し、必要に応じて避難準備を始める

- ☐ 医療機器のパテリ一等の充電
- ☐ 非常用電源等の作動確認

2 警戒レベル 2【注意報】 避難行動を確認。いつでも避難できるよう準備を完了する
台風など大規模な災害が予想される場合は、この段階での避難開始も検討する

- ☐ 避難時持ち出し物品の準備、確認 3 ページ
- ☐ 避難経路の確認（添付の地図で確認）
- ☐ 搬送手段の確認 方法 _____ TEL _____
- ☐ 避難先への連絡 ①どこ _____ TEL _____
住所 _____
- ②どこ _____ TEL _____
住所 _____
- ☐ 避難に必要な時間 ①まで 約 _____ 分 ②まで 約 _____ 分

3 警戒レベル 3【高齢者等避難】 すみやかに危険な場所から避難する

- ☐ 避難先へ避難

4 警戒レベル 4【避難指示】 危険な場所からの避難を完了する

- ☐ 安否の連絡 2 ページ

7 ページ

避難を想定し、様式2（3ページ）を参考に、持ち物を確認し、
□にチェックを入れる。台風など大規模な災害が予想される場合
は、この段階での避難開始も検討する。

避難経路の確認

予め避難経路を記入し、準備しておいた地図を使用して、安全な避難経路を確認する。

搬送手段の確認

あらかじめ決めている搬送手段を記載する。避難する場合は、早めに搬送支援者・避難先に連絡し、避難できることが望ましい。気象情報をこまめに確認し、搬送支援者に出発予定時刻等を伝える。

避難先への連絡

避難先は、浸水の深さ、浸水が続く時間などを考慮して、あらかじめ決め、その避難先を記載する。避難する場合は到着予定時刻を連絡する。

避難に要する時間

搬送支援者への連絡や搬送手段も考慮したうえで、避難に要する時間を記載しておく。

③ 警戒レベル3

避難先へ避難

風水害が予想されている場合、風雨が強くなる前に、浸水の危険性が低い場所へ早めに避難できればより安全である。避難情報を確認し、避難する。

④ 警戒レベル4

安否の連絡

避難が完了し安全を確認したところで様式1（2ページ）に従って安否確認者へ連絡する。
※日頃の外出の機会は、移動方法、バッテリーの作動時間、避難経路の確認ができ、避難訓練になる

■ 様式6 緊急時の医療情報連絡票

様式 6

緊急時の医療情報連絡票

人工呼吸器の取付に関する異例の指示書などの最新情報を一挙に伝達しましょう。この連絡票は、災害時等に初めて対応する医療関係者に伝達したい医療関係者にもためめものです。人工呼吸器の脱付・再装着が完了した場合は、**かりつけ医**の所属機関・病室等に送付していただき、作付・更新しても構いません。**緊急時受診者の顔にはこの様式を見せましょう。**

体調悪化時の相談先・受診の目安となる状態

1. 相談先 TEL _____

2. 相談先 TEL _____

【受診の目安となる状態】 ※平常時に主治医に確認しましょう

【基本情報】

記入日 年 月 日

氏 名 (フリガナ)	()										
生年月日	年	月	日	年 齢	性 別	に 関 係 し た 性 別					
住 所	TEL										
診 察 科											
主治医 の 姓 名											
今までの経過	発 症	年	月	人 工 呼 吸 器 結 合	年	月					
既往の病	11 ページに添付された患者手帳のページをもつておきましょう										
医療情報	身長	cm		体重	kg		血圧	/ mmHg			
	体温	℃		脈拍	回 / 分		SpO ₂	%			
12 エピソード	☐ 口話 ☐ 筆談 ☐ 文字書 ☐ 口文字 ☐ 筆頭伝達装置 () その他 () 脳神経刺激 (Yes / No のいずれも)										

8 ページ

51

災害時は、人工呼吸器使用者の健康状態を理解しているかわかりつけ医や訪問看護ステーション等の支援を受けられず、緊急でかかりつけ医以外の施設に受診・入院する可能性がある。そのような場合に備え、必要な情報を記入しておく。災害時以外にも旅行等の外出時に携帯するとよい。

受診の際には災害時個別支援計画を持参し、見せるようにする。

体調悪化時の相談先、受診の目安となる状態

災害時に状態が悪化した場合を見据え、受診の目安となる状態や、相談先を決めておく。

① 相談先

発災時のかかりつけ医の役割や区市町村の医療体制等を確認した上で相談先を事前に決めておき、記載する。本人の状態をアセスメントできる機関（例：かかりつけ医・訪問看護ステーション等）と人工呼吸器使用者が医療にアクセスが可能となるよう調整できる区市町村の窓口部署（例：

③ 気管切開

気管カニューレのカフエアは、カフ圧計での管理が推奨されているが、緊急時にカフ圧計を用意できないことを考慮して、適正なカフ圧にした場合のカフエア量を記入する。

④ 吸引

必要な吸引の方法にチェックを入れる。

⑤ 栄養・水分

栄養の摂取方法、チューブの種類とサイズ、栄養剤の種類、1日の総カロリー等を記入する。

⑥ 排泄

排泄の状況について記入する。

⑦ その他の特記事項

特定の薬剤や消毒薬、食品などにアレルギーがある、血圧や脈拍など数値の変動が大きい等、医療情報として伝達が必要と思われる内容を記入する。

⑧ 主治医

専門医は、病状が悪化し入院加療などが必要な場合の病院担当医師を記入する。

かかりつけ医は、人工呼吸器使用者の病状、日頃の健康状態をよく理解しており、自宅へ定期的に訪問診療を行う医師を記入する。

■ 人工呼吸器に関する情報の貼付欄（10ページ）

人工呼吸器の設定に関する指示書や人工呼吸器と回路・バッテリーの接続写真などを貼る。

■ 医療情報等に関する貼付欄（11ページ）

受診の際に必要な処方箋やお薬手帳のコピーを貼付する。変更したら、その都度貼り換える。

安楽な体位のイラストや療養生活上の注意事項等があれば記載する。

■ 災害時の情報リスト（12ページ）

災害時に活用可能な情報を一覧にした。

各区市町村独自の配信サービス等があれば余白スペースに記載する。